

# 木々や小動物で

## 坂出市立病院待合室

# 「緑の憩いの場」に



殺風景だった待合室を「緑の憩いの場」に一変させ笑顔を見せる(右から)高橋さん、井上さん、水野さん、西さん＝坂出市寿町、市立病院

## 四国職能大の学生が装飾

坂出市寿町の坂出市立病院の病棟デイルーム(待合室)が、木々やかわいいう小動物の絵で彩られた「緑の憩いの場」に一変した。装飾を手掛けたのは四国職業能力開発大学校(丸亀市郡家町)の学生4人。患者の気持ちと和らげようと、今秋からボランティアで作業を進めてこのほど完成、病棟の一角が明るい雰囲気になっていく。

装飾したのは病棟5階のデイルーム。入院患者や家族が話したり休憩したりするスペースだが、血液内科のフロアのため、感染症対策として観葉植物などを飾れず、これまでは白い壁だけの殺風景な空間だった。何とか雰囲気を変えようと、病院は同校で教員を務める坂出市出身の美術作家

辻野栄一さん(58)に相談。辻野さんの研究室で学ぶ、住居環境科2年の高橋司さん(20)、井上聡志さん(20)、水野佑哉さん(20)、西純平さん(19)に「いずれも丸亀市」の4人がデザインから装飾まで手掛けることになった。

4人は辻野さんの指導を受けながら、9月から「癒やし」をコンセプトに絵柄を考案。病院の意向も踏まえてデザイン案を固め、10月から病棟に通って塩ビフィルムの壁紙シートで装飾作業に取りかかった。

完成した装飾は、濃淡のある緑の葉が生い茂った木で、小鳥やリス、モグラなどの小動物が遊ぶ優しいデザイン。長く伸びたつるに複数の写真フレームが掛けられており、季節の写真などを飾ることもできる。図柄を主に考案した高橋さんは「患者さんの笑顔の写真

なども飾ってほしい」と話し、井上さんは「作業中に患者さんと交流できて楽しかった」と振り返った。岡田節雄院長は「ストレスを抱えがちな患者さんらの心を癒やしてくれるだろう」と感謝していた。